

帯水層としては、沖積層では河川堆積層の砂層が、洪積層では扇状地堆積層の砂礫層（層厚20～35メートル）がそれぞれ帯水層となっており、基盤岩である第三紀層では竜ノ口層が帯水層となっている。

軟弱層の分布状況は、海岸寄りの地域の浜堤間では低湿地堆積層の粘土層（層厚1～2メートル）が分布し、亘理の丘陵地周辺では泥炭層（層厚1～2メートル）が分布している。

7) 阿武隈川水系内陸地下水盆（白石・角田・船岡地域）

本地下水盆の範囲は、阿武隈川流域及び白石川流域と両川が合流する槻木低地までの間とする。特徴としては、角田丘陵に囲まれた角田盆地、白石川流域に当たる白石盆地、村田盆地など多くの盆地があることである。

地下水盆の基盤岩は、角田盆地を取り囲む周縁の丘陵地帯の地層と同一である第三紀層で、中新統下部の槻木層（主として砂質凝灰岩、砂岩）が主たるものと推定される。

着岩深度は、角田盆地で40メートル、白石、船岡、大河原などで20メートル前後となっている。

帯水層としては、沖積層では白石、角田、船岡の各地区とも河川堆積層の砂礫層（層厚10メートル以下）が、洪積層では白石地区は段丘堆積層の砂層（層厚15～20メートル）と扇状地堆積層の砂礫層（層厚10メートル以下）が、角田地区は扇状地堆積層の砂層（層厚15～30メートル）が、船岡地区は段丘堆積層の砂層（層厚5～10メートル）と扇状地堆積層の砂礫層がそれぞれ帯水層となっており、基盤岩である第三紀層では、白石、角田、船岡各地区とも槻木層が帯水層となっている。

角田地区模式柱状図

地質時代	地層名	柱状図	厚さm	地質	備考
第四紀	沖積世	表土氾濫原堆積層	< 10	粘土・ローム （有機物まじり）	軟弱層
		低湿地堆積層			
	洪積世	扇状地堆積層	15～30	砂 （ローム・シルト層をはさむ）	帯水層
			< 10	砂礫	帯水層
第三紀	中新統	槻木層		砂質凝灰岩 砂岩	帯水層

地質時代	地層
第四紀	沖積世
	表土氾濫原堆積層
	低湿地堆積層
	洪積世
	段丘堆積層
	扇状地堆積層
第三紀	中新世
	槻木層

地質時代	地層
第四紀	沖積世
	表土氾濫原堆積層
	低湿地堆積層
	洪積世
	段丘堆積層
	扇状地堆積層
第三紀	中新世
	槻木層

軟弱層の分布状況（層厚20～35メートル前後）が広く、粘土層が認められる。なお、別に添付の図に類型を区分して示す。